

## IAUD Newsletter vol.11 第7号(2018年10月号)

1. 手話用語 SWG グローバルボディランゲージ意見交換会開催報告…………… 1
2. 「第7回国際UD会議2019 in バンコク」開催のご案内…………… 3
3. 「GC グランドフェスティバル 2018」開催のご案内…………… 4
4. IAUD 10月の予定…………… 4

## 外国人や高齢者、身体障害者が確実に避難できるために 活動報告:手話用語 SWG グローバルボディランゲージ意見交換会

外国人や高齢者、身体障害者が災害避難時でもわかりやすい「グローバルボディランゲージ」を提案している手話用語サブワーキンググループは、9月14日(金)に、筑波技術大学天久保キャンパス(茨城県つくば市)にて筑波技術大学教授の大杉豊氏(以下:大杉先生)との意見交換会を開催しました。

当日は同SWGのメンバー3人が参加し、グローバルボディランゲージをよりわかりやすくするためのポイントを学ぶことができ、大変有意義な内容となりました。

今号のNewsletterでは、当日の様子を同SWGの仁宮浩メンバーに報告していただきます。



大杉先生(写真左)との意見交換会の様子

### 災害弱者にわかりやすいグローバルボディランゲージ

手話用語SWGは2014年より、災害時に外国人や高齢者、身体障害者が抱える2つの問題点「日本語が通じにくいハンディキャップ」「周囲の音が大きく騒がしい環境下で音声コミュニケーションが困難」に対して、視覚的にわかりやすいグローバルボディランゲージを提案する活動を開始しました。

2014年11月に「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議2014 in 福島&東京」で開催した「東京ワークショップ」では、グローバルボディランゲージの「有効性」「伝えることの重要なポイント」「気づき」を確認できました。

そして、3つのポイントを元に避難や誘導を促す重要なキーワードを抽出し、「①地震時の避難誘導」「②津波の状況説明」「③避難所への誘導」「④階段を使った避難誘導」「⑤火災の状況説明」の5つのグローバルボディランゲージ案を作成しました。



SWGの活動を紹介する仁宮メンバー

2015年10月には筑波技術大学天久保キャンパスでワークショップを実施し、グローバルボディランゲージ案に対する評価を実施しました。

参加者には、グローバルボディランゲージ案に対する重要性を感じていただけたものの、改善に向けて「特に学ばなくても簡単に表現できること」「まずはその場を避難することを伝えてから状況説明、という二段構成(二発芸)がよい」等のコメントをいただきました。

※詳細は IAUD Newsletter vol.8 第9号(2016年1月号)をご参照ください

<https://www.iaud.net/newsletter/2582/>

2016年7月に音響・照明・映像のジオラマが用意されている防災体験学習施設「そなエリア東京」を訪問した際には、筑波技術大学でのワークショップ時にいただいたコメントをもとに、グローバルボディランゲージを見直した案を用意し、災害の擬似体験をしながら有効性や課題を確認しました。

また、ジオラマを背景に撮影することで評価用の動画に災害の情報を付加することができ、検討時には気づけなかったようなことも多く明らかになりました。

※詳細は IAUD Newsletter vol.9 第5号(2016年8月号)をご参照ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/6454/>

2016年10月には「そなエリア東京」にて撮影した動画を使って60~70代の方々を対象に評価ワークショップを実施しました。さらに、同年12月に開催された「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」の場でも参加者に評価ワークショップを実施しました。

この2つのワークショップの結果、「①地震時の避難誘導」「②津波の状況説明」はほとんどの人が理解いただけましたが、「③避難所への誘導」「④階段を使った避難誘導」「⑤火災の状況説明」は約60%が「理解できなかった」との回答がありました。

そこで、このわかりにくさの課題に対して専門家の知見を参考にしようと、今回の意見交換会を開催することになりました。

## グローバルボディランゲージの改良3つのポイント

意見交換会では、ろう者で、筑波技術大学で手話言語学を専門とし、国際手話やジェスチャーの研究にも詳しい大杉先生にお願いしました。

大杉先生からは、日本人が日本語の音声や放送などを聞いて理解したことを日本語に不慣れな外国人など災害弱者にわかりやすく伝える表現について、以下の3点をお話いただきました。

### (1) グローバルボディランゲージの基本構造の確立

地震が起きた後、津波から避難する表現では、「避難する場所」を指差してから「逃げる」を伝えるパターン「指差し」+「内容」があります。

もう1つ、津波の状況説明では、「津波」を伝えてから、海の方を指差すパターン「内容」+「指差し」の2つあります。

使い手の立場で考えると、どちらかに使いわけるのは難しいです。「指差し」+「内容」+「指差し」という「内容」を「指差し」で挟むサンドイッチのような構造を基本とすれば、覚えやすいしわかりやすく伝えられるのではないのでしょうか。

### (2) ジェスチャーを大きく、表情をわかりやすく

基本となる構造を決めたら、「内容」に相当する身振りを大きく、表情をわかりやすく伝えたいほうがよいでしょう。

例えば、「寝る」は頭もちゃんと倒すようにしたほうがよいでしょう。「食べる」は手話単語をそのまま表現しても、手話言語を習得していない人にはわかりにくいです。「火事」は手を上下に

数回往復させるよりは、ゆっくりと燃える炎の動きを表現したほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

### (3) 普及には行政・民間団体と連携

行政や民間団体による防災取り組み状況を調査して、グローバルボディランゲージの普及と有効性が期待できそうな地域を検討したほうがよいでしょう。

例えば、津波が発生したとき東京地域ではどこが一番危険なのか、注意標識や高台の避難所設置、無線や放送マニュアルなどの整備が図れている地域を選定して、地域のリーダー達にグローバルボディランゲージの必要性を訴え、連携する方法が考えられます。

## グローバルボディランゲージの確立と普及へ

今回は専門家と意見交換を通して、「グローバルボディランゲージをよりよいものにできるか」をポイントに議論しました。

グローバルボディランゲージをよりよいものにしていくには、基本構造を明示化すること、「内容」をわかりやすく伝えるポイントに大きな身振りやはっきりした表情が欠かせないこと、普及のためには行政や民間団体と連携していく必要性が出てきました。

今後の予定は、グローバルボディランゲージの基本的な考え方を確立し、行政や民間団体による防災の取り組みを調査した上で評価方法の再検討を行い、確定させます。

そして普及させるための計画、検討、実践に取り組みながら、より多くの人が使いやすい、わかりやすいグローバルボディランゲージを目標に進めていきます。

今回、ご協力いただいた筑波技術大学の杉先生に改めて御礼を申し上げます。

なお、手話用語 SWG は、一緒に活動できるメンバーを募集しています。ご関心いただける方は、IAUD 事務局までご連絡ください。



## 初の海外開催！質の高い UD 社会を目指して 「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」開催のご案内

IAUD は「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を 2019 年 3 月 4 日(月)から 6 日(水)の 3 日間、タイの首都バンコクで開催します。

会議のテーマは「ユニヴァーサルデザインによる持続可能な発展」。ASEAN 各国の産業振興と地域発展、そして日本との更なる経済的文化的交流を促進すべく、質の高い UD 社会の実現をめざします。

現在、国際会議でビジネスにおける UD の取り組みを紹介いただく企業・団体を募集しております。

また、国際会議で発表していただきたく論文も 11 月 20 日(火)まで募集中です。どうぞ奮ってご応募ください。

※「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」公式 HP はこちらをご覧ください。

<https://www.ud2019.net>

※「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」講演者募集はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/10476/>

※「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」論文募集はこちらをご覧ください。

<https://www.ud2019.net/papers>



会場となるモンクット王工科大学

## 日本初の障害者主催エンタテインメント事業

### 「GC グランドフェスティバル 2018」開催のご案内

障害者が主催するエンタテインメント事業「GC グランドフェスティバル 2018」(主催:NPO 法人日本バリアフリー協会)が11月10日(土)にSTUDIO COAST(東京・新木場)で開催され、IAUDも後援します。

「GC グランドフェスティバル」は、「同じステージで。」というテーマのもと、障害者が就労・雇用を通じて自立できるノーマライゼーション社会を目指しており、4回目となる今回は矢井田瞳、Analogfish、セカイイチが出演します。

障害者が企画・運営し、できる限り業務を障害者に委託・発注することにより、実際に就労を実現します。また、興行収益は障害者の就労を拡大するための資金としています。どうぞ奮ってご参加ください。

※「GC グランドフェスティバル 2018」の詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.gcgf.jp/>



## 2018年10月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8 体育の日	9	10	11	12 13:00~ 手話用語 SWG @IAUD サロン	13	14
15 15:00~ 住空間 PJ @IAUD サロン	16	17	18 13:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	19 13:30~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	20	21
22	23	24	25 13:00~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	26	27	28
29	30	31				

次号は11月上旬発行予定

特集:「第13回48時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」開催報告ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net